くろゆり通信

第3号 平成14年12月発行
発行者　国土交通省中部地方整備局 天竜川上流工事事務所
小渋川砂防出張所
小渋川砂防安全協議会

工事完成致しました

斜面の緑化により、大西山のように崩壊が拡大しない為に工事を行ないました。

約9ヶ月に渡る工事でしたが、地元の方々、各関係者の方々の協力で、無事故で工事を完成することができました。
今後また、大原村の工事に携わっていければと思っております。ご協力ありがとうございました。

神宿建設（株）

工事範囲が3箇所の尾根にまたがった地形で、高低差が最大で110mあり、ステップ数810段、総延長33km の作業通路を斜面に設置するのに大変苦労しました。夏は大変暑く、冬は例年より訪れが早く、作業環境でも苦労しました。

長豊建設（株）

女高ワンポイントメモ

工事がおこなわれたのは鹿塩川沿いの、女高（おなだか）地区でした。

女高は、江戸時代には秋葉街道の鹿塩村最後の集落でした。
現在の女高は、日本みつばちの巣がかけられ、朝夕には、鹿の姿がよく見られます。また152号線の冬期閉鎖ゲートが設けられており、間もなくの静かな冬を待っています。

女高の名の由来　（ろくべん館　中川　豊様より）

その1

南北朝時代に後醍醐天皇の第八皇子宗良親王ご入村の折り、親王にお仕えした女子が、この地籍より出たことから女姫が女高にかわり、この地名になったと伝えられています。

その2

戦国時代に、大河原村鹿塩村まで勢力を伸した遠山氏は、甲斐の武田氏に属し、武田参勤に勤めていた。又、天正10年（1582）武田氏滅亡後は、徳川参勤をし、この折りの通路が地蔵峠より分杭峠に至る見越路（後、秋葉路と呼ばれる）で、鹿塩村で陣本陣として女高兵庫と言う人物の名前が出てくることから、この人の名前から女高と呼ばれることになったのかも知れません。